

# 福島原発 压力容器の底に穴か 制御棒駆動機構 一部脱落

東京電力は福島第一原発1号機の原子炉格納容器内部調査で、原子炉压力容器底部にある「制御棒駆動機構」の一部が脱落し、圧力



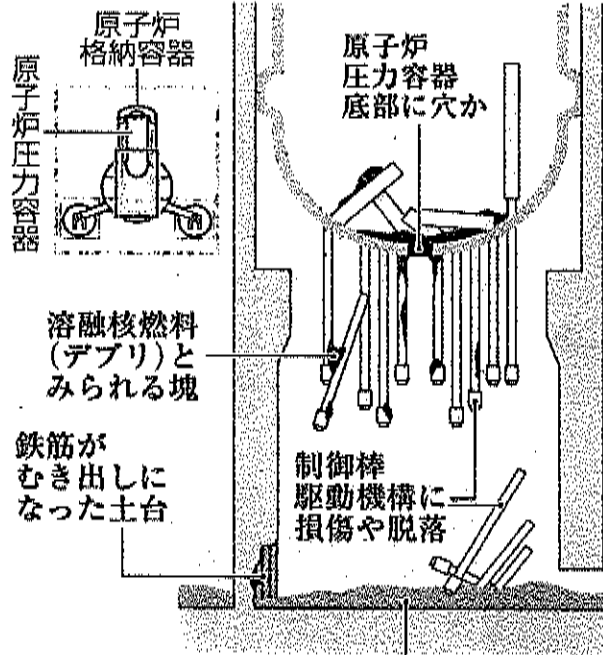
福島第一原発1号機の原子炉压力容器の底部。右下は容器の底に開いた穴の可能性がある空間。デブリとみられる塊（右上）が制御棒駆動機構の一部に付着している。3月（国際廃炉研究開発機構提供）

容器の底に穴が開いた可能性があるとの見方を示した。溶融核燃料（デブリ）とみられる塊が付着しており、東電は「デブリの熱で压力容器に穴が開いた」とみている。

東電によると、制御棒駆動機構は原子炉の出力を調整する制御棒を、压力容器の下側から出し入れする設備。長さ約四尺の筒の束が正常な位置から下がり、一部は格納容器の底部に落ちていた。

カメラで周囲を撮影すると、何も写らない空間があり、压力容器の底に穴が開いていることが示唆されるという。付着した塊はデブリとみられ、撮影した映像はノイズが激しく、周囲は放射線量が高い可能性がある

福島第一原発1号機の原子炉格納容器内部（イメージ）



る。格納容器側面へと通じる。压力容器土台の貫通部をふさぐように脱落した筒も確認された。2号機では、貫通部がデブリ取り出しに用いるロボットアームの投入口として利用される計画で、東電は1号機の貫通部が、今後の調査や廃炉作業で利用できるかどうかを評価するとした。

調査は三月二十八〜三十一日、水がたまる格納容器に水中ロボットを入れて実施した。压力容器を支える円筒状の土台が全周にわたって損傷し、鉄筋がむき出しになっていたことも判明。土台の内側には格納容器の底部全体に、高さ一メートル未満の堆積物が広がっていた。